

19日(土) 5時 岸屋ルナホール
前売・500円 当日・600円

★神戸大学／交響楽団

26日(土) 7時 神戸文化大ホール
600円

★関西学院大学／交響楽団

29日(火) 神戸文化大ホール
20日(日) 6時半 神戸国際会館
★タモリ

スポーツ

★ジャパンカツブ

キリンワールドサッカー

6月4日(金) 1時 ②4時半
球技場 S・3000円 A・2000円
000円(前売1500円) B・1000円
000円(8000円) 中高生前

音楽

★西城秀樹

6月(日) ①1時 ②4時半
神戸国際会館 1S・3800円
A・3000円 B・2500円

★第17回全日本ディキシーランド

6月(日) 11時 武庫川学院第3
学舎甲子園会館 2800円

★堤剛／神戸室内合奏団

6月(火) 6時半 神戸文化中ホール
2500円 一般・2800円

★藤島恒夫／歌こころの浪漫航路

6月(火) 6時半 神戸国際会館
一般・2000円 学生・1800円

★林純子トランペットリサイタル

6月(金) 6時半 元町・夙月堂
ホーリー 1500円

★タモリ

20日(日) 6時半 神戸国際会館
★俳優座
「食肉市場のジャンヌ・ダルク」

演劇



演劇

★坂本利一・土佐源氏一人芝居

4日(金) 6時半 神戸文化小ホール
1500円

★西宮大谷記念美術館

県内日本画回顧展
12/7/11

美術



美術

★鞍井ボビアノリサイタル

10日(木) 7時 神戸文化中ホール
一般・2000円 学生・1800円

★下久美子

9日(水) 6時半 神戸国際会館
一般・2000円 学生・1800円

★坂田二郎

30日(水) 6時半 神戸文化中ホール
A・2300円 B・2000円

★林千鶴子

8日(火) 6時半 神戸文化大ホール
2500円 一般・2800円

★山下久美子

9日(水) 6時半 神戸国際会館
一般・2000円 学生・1800円

★坂井千鶴子

11日(金) 6時半 元町・夙月堂
ホーリー 1500円

★タモリ

20日(日) 6時半 神戸国際会館

壳・500円 小学生前売・300円
親子券・2000円
アジアで行なわれるサッカーレイブントでは最大のスケールといわれる「ジャパンカツブ・キリンワールドサッカー'82」が5月30日～6月9日、全国6会場で開かれる。参加チームは、ベルダーブレーメン(西ドイツ)、フェイエノールト(オランダ)、シンガポール代表、日本鋼管、日本代表の5チームで、全10試合が行なわれる。神戸での試合

は、今年の正月、天皇杯で優勝を飾った日本鋼管で、70年にクラブカツブ世界

一、「74年U.E.F.A.カツブに輝いた実力と実績をもつ

フェイエノールトとの対戦が予定されている。

70年にクラブカツブ世界

一、「74年U.E.F.A.カツブに輝いた実力と実績をもつ

フェイエノールトとの対戦が予定されている。

は、今年の正月、天皇杯で優勝を飾った日本鋼管で、70年にクラブカツブ世界

一、「74年U.E.F.A.カツブに輝いた実力と実績をもつ

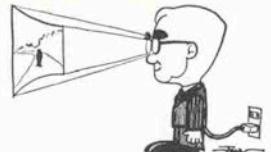
フェイエノールトとの対戦が予定されている。

70年にクラブカツブ世界

一、「74年U.E.F.A.カツブに輝いた実力と実績をもつ

フェイエノールトとの対戦が予定されている。

●ふらつしゆ ●ばつく●



淀川 長治

(映画評論家)

ホーム・ドラマの カムバツク



「黄昏」

「ヘンリー・フォンダとキャサリン・ヘップバーンの『黄昏』（一九八一）が東京で大当りしている。八〇歳の老夫婦物語だが実に美しい。その美しさは枯れてゆく人間の、あたかも夕陽の沈むしばしの夕景の美しさ、そのような美しさを思はせて悲しく哀れでありながら、この老夫婦の人情がたまらなく暖かいので見とれてしまう。それにこの舞台劇を映画化したことでの映画は自然の風景をふんданに画面に出すゆえに（自然）が主役の重さを示し、人間の春夏秋冬を感じさせていた。

四〇歳代の娘（ジェーン・フォンダ）この娘が連れてきた結婚相手の男の先妻とのあいだに生まれた男の子十三歳。この映画はこのように芽生えと壯年と老いくちてゆく老年の人間の四季を見せたのであった。アメリカ映

画は再びホーム・ドラマをカム・バックさせてきつづる。そういうえばあの「チャンプ」（一九七九）のころから夫婦とふたりの仲の子供といった人間の内輪の方向に目を注ぎだし、「グレイマー、クレイマー」（一九七九）も夫婦と子供、そしてこの二作は共に夫と妻のあいだにできたひびが夫妻を引き離したあとの父と子のホーム・ドラマであった。

しかしホーム・ドラマはジミー・ディーンの「エデンの東」「理由なき反抗」さらに「ジャイアント」さえもこれまで二代三代にわたるスケールの大きなホーム・ドラマであり「ハリーとトント」の老父と二人の息子と一人の娘。この父と子の物語もそうだし、ホーム・ドラマ

は今さらにはカム・バックとは申せぬのだが、「黄昏」のような静かな映画の中にさえハッとする新時代の空気が流れこむことでホーム・ドラマのカム・バックの新しい衣裳が新しいホーム・ドラマを示し、ただのカム・バックでないことで……映画というものの面白さを知るわけである。

「黄昏」の娘は子連れの男を結婚相手にして親のもとにやつてきたのである。三十年ほどまえのホーム・ドラマにはどう考えても登場しなかつた娘である。そういうえばロバート・レッドフォードが監督としての第一作の「普通の人々」も息子のことから夫婦間にひびが這入り母親は夫と息子を捨てた。これは普通の人々ではない。この映画の題名はそれを皮肉っているのだが、もはや今では実はこれが普通の人々になりつつあることで、これから再び登場するホーム・ドラマは、やはり、注目のカム・バック……ということになる。

「奇蹟の人」「俺たちに明日はない」のアーサー・ペニン監督が「ミズーリー・ブレイク」（一九七六）のあとしばらく沈黙していたのだが五年ぶりで「フォード・フレンズ」（一九八一）という青春映画を発表した。これは映画のために書かれた脚本で、ユーロからシカゴに移民してきた夫婦の息子の十二歳がやがて青年になったそのころ（一九六〇年代）を描いているのだが、この息子と二人の友人、つまり男三人が一人の娘を愛し、その娘が、ほんばうな自由主義の有名な舞踊家イサドラ・ダンカンを自分の生き方のポイントにし、三人の男との関係

がややこしい人生ドラマを盛り上げてゆく。この娘はその三人の一人と肉体関係を結びやがて妊娠したときにそ



●フォー・フレンズ



の相手の男がベトナム戦争に出征することになり妊娠している娘はそれを知っている別の男と結婚してしまう。別の男は彼女を救ったのである。けれどもこの娘が本当に愛していたのはユーロから移民してきたその両親の息子だった……というようにもホーム・ドラマも青春映画もただのカム・バックではなくなったのである。この若者たちの生き方、そしてその若者の一人である自分の息子の生き方を見つめているうちに、この息子の父親はアメリカに幻滅し、このユーロから移民してきた今はすっかり年をとった老夫婦は、息子をアメリカにひとり残して故郷のユーロに帰つてゆく。

こう見えてくると「黄昏」の美しさは、アメリカが一派ほしいと夢に描いている美しさであつて、現実のホーム・ドラマはもつと複雑になり、もつときびしくなり、もつと人間臭くなつてきて、やさしいホーム・ドラマのかつての時代の再来ではなくなつてきた。けれどもアメリカはもう一度（ホーム）（家庭）を恋しがつてゐるとはたしかである。ところがつい最近のアーサー・ヒラード監督の「メイキング・ラヴ」（一九八二）の物語は夫妻のあいだにひびが這入つた、夫が愛人ができたことを打ちあけたのだ。妻は我慢して夫婦のよりを戻そうと思った。ところが夫の愛人というのがなんと男性だった。これでは我慢できるわけはない。二人は離婚。数年がたつた。別れた夫婦があるとき再会した。妻には新しい夫ができ子供も生れていた。そのとき別れた夫がその妻の幸福を祝したと同時に僕も愛する相手と暮していふと云つてその相手が向うの方に立つてこちらを見ていふその相手を別れた妻に教えたのだが、それが男性だったのであつた。アメリカのホーム・ドラマはやがて再びいろいろと訪れてくるであろうが、そのドラマは「黄昏」のように美しくやさしいものばかりではなさそうである。そして「メイキング・ラヴ」の監督が実はあの「ある愛の詩」の監督なのである。



△6▽“風吹くまゝ”

「寄らば大樹の蔭」というけれど、大樹の蔭に寄つたばかりに大樹がブッ倒れそうになつてヒヤヒヤしなければならなくなつてゐる人が多いという。

いま、ちょうど、四月に入った新入社員が、希望に胸躍らせて実務についた季節である。一流大学を出て一流企業に入社した人もあれば、希望通りいかなかつた人もあるわけだけれど、一流企業が必ずしも人生ではないと思うのである。私なんぞは若いときから一流企業に入れる境遇ではなかつたから、ヒガミ根性も手伝つて、

「大樹に寄るより小さくとも柄檜の二葉の香りがする会社を選ぶ若者が好きだ」

なんて氣取つてゐるのである。梅檀でなくともいいが二葉は風が吹いても倒れないからだ。私が子供の頃、お宮の樹齢何百年という松の大木が台風の夜、地響をたてて倒れたことがある。家がお宮の森に接してるので、松の木は我家の軒先すれすれに倒れていたのである。翌朝、その松の木を見て驚いた。四抱えもあろうかと思う松の幹は、なんと、空洞になつていて、殆んど腐つてい

たのだった。

まさか、父親が、風除けの為に大木の蔭を選んで住みついたのではないが、

「大風が吹いても大樹の蔭の方が安全だ」

なんて思つていたとしたら哀れである。

さいわい、我家は運よく、小さかつたので腐つた大木の直撃をうけなかつたのであつた。が、まさか、父親も中が腐つていたとは思わなかつたらしい。

この頃、まさか、と思うような企業がバタバタ倒れてゐる。みんながみんな中が腐つていたとは思はないが、予期しない“大風”に耐えられなくなつたのだろう。

そこへいくと“親方日の丸”的国鉄さんなどは相当な赤字と“風当り”に耐えているから大したものだ。これもみんながみんな腐つているとは思わないが、樹齢を重ねた老木のような気がしてならない。国鉄は何といつても日本国の“血管”だから動脈硬化を防いで健康体に近づけなければならない。それにしても、国鉄職員のサービスの悪さは定評がある。が、国鉄職員に今、急に「サービスをしろ」といつても無理な話である。もともとの育ちが育ちだからである。明治以来、官営で、発足当时

動脈硬化



からサービス教育などはなかったと思うからである。民営のように「毎度ご乗車ありがとうございます」から始まつていい。サービスの何たるやを考察する素質をもとからあたえていないからだろう。官制という浮袋をあたえられて水練をしているようなもので、裸のまままで川に投げ込まれて泳いで来た民営と格段の差が出来るのも仕方のないところで、職員を責めることは出来ない。育てた親が子を責めるようなもので「あの時こうして置けばよかつた」と言つても遅いからである。事故なく定刻に発着させればよいということであれば、機械と同じでサービスは出来ない。

また、官営といつても採算を無視していては、そのツケは国民に回り、それが回つて職員自身（職員も国民の一人）に降りかかってくる結果となるからだ。時代は違

である。一方的に五年連続値上げの国鉄運賃に対しても「カレンダー」をめくるようなものだと諦め顔でいう乗客も「もっとサービスしてもらいたい」と付け加えるのだが、抽象的で具体性がない。一般公務員にしろ「お前らは税金で養っているんだ頭を下げる」と言われても公務員も納税者の一人だから欣然としない。ただ、公職にある者は税金が直接月給として確実に還元される、が、一般納税者は間接的で有難味が少ない（公的機関に直接商売をしている納税者は別だが）からだろう。公務員も只で金はもらっていいない、納税者のために働いてもらつてているのだから「毎度おおきに：」と頭を下げる必要はない。ただ、サービス精神の根底に、いくばくかでも直接還元される生活費に対しての感謝の念が欲しいというところである。納税者も自分達のために働いてくれている公職者にいくばくかの感謝の気持が欲しいというもののた。お互いに脳の改革が必要だ。

うが、私達の少年時代（昭和初期）などは、国鉄に就職した友人を見たりすると羨ましくて仕方がなかつた事を覚えてる。あの当時も国鉄の採用条件は機会均等、きわめて民主的で、学歴はなくとも採用試験にパスすればよかつたのだが、私は残念ながら、受ける自信さえなかつたのであるから何をか言わんやであるが…。その友人は今、国鉄を勇退し、徳島で細々ながらも悠々自適の生活をしている。彼は良き時代を生きた眞面目な国鉄職員だったことを懐かしさと共に喜こんでいる。

そこへいくと、今を生きる人達は不運、というべきか、行革の嵐の中に立たされ大木の下にいるようなもので、不安この上ないだろう。かくいう私も、行革の嵐の中にいる息子家族を持つてゐる一人、他人事ではないのである。矢面に立っている国鉄ではないが、悩みは同じ、「国鉄職員にしろ一般公務員にしろみんな生きていかねばならないのだからお互いに考えねばなんやないか」と、どうしても鋒先が鈍くなり「職員が多過ぎる、首を斬ってしまえ」などと、短絡的には考えられないのである。一方的に五年連続値上げの国鉄運賃に対しても「カレンダーをめくるようなものだ」と諦め顔でいう乗客も「もつとサービスしてもらいたい」と付け加えるのだが、抽象的で具体性がない。一般公務員にしろ「お前らは税金で養っているんだ頭を下げろ」と言われても公務員も納税者の一人だから然然としない。ただ、公職にある者は税金が直接月給として確実に還元される、が、一般納税者は間接的で有難味が少ない（公的機関に直接商売をしているのだから「毎度おおきに…」と頭を下げる必要はない。ただ、サービス精神の根底に、いくばくかでも直接還元される生活費に対しての感謝の念が欲しいというところである。納税者も自分達のために働いてくれている公職者にいくばくかの感謝の気持が欲しいというものの、お互いに脳の改革が必要だ。

・第3回「もとまちアイドルレディー」決定・



北波美樹子さん

清野 沙織さん

高橋 尚子さん

が300円。3個入1,000円、6個入2,000円、9個入3,000円。アフターディナーのひとときお気に入りのティー・カツプで、少しあダルトに装つて召しあがつてみては…。サマーギフトにも最適。

★パリの雰囲気がいっぱいシャンソン・コンサート

4月24日、元町の神戸風月堂ホールで、『深緑夏代シャンソン教室発表会』の初コンサートが開かれた。この日歌



華やかなコンサートにうっとり

ったのは19人の生徒さんたちで、そのほとんどがロマンス・グレーの主婦の方々。自分的好きな歌を選んで、たっぷり一ヶ月は練習した

元町グループの公式行事

にコンパニオンとして花を添える「もとまちアイドルレディー」3名が5月8日風月堂5Fホールで開かれた最終審査で決定した。

神戸まつり協賛催として始められたもとまちアイドルレディも今年で3回めを迎、25才までの知的で健

康な未婚女性を対象に募集、19名の応募があり書類審査、面接を経て10名が決

定された結果、北波美樹子さん(宝塚市在住)、清野沙織さん(宝塚市在住)、高橋尚子さん(宝塚市在住)の3人が決まりハワイ旅行招待他、豪華賞品が贈呈された。

というだけに、みなさん、ドレスアップした衣裳で、身ぶりも優雅に堂々の歌い方。出演者の話題にも事欠かず。ある生徒さんは「歌ってみて、歌のむずかしさがわかった。でもこんな雰囲気のいいホールで歌えて、あわせです」と、華やかなコンサートを心ゆくまで楽しんでいた。



喜びの永田さん

★永田良介商店の永田良一郎社長が5月19日、栄誉ある藍綬褒章を叙勲されました。おめでとうございま

新製品コーナー



さわやかな味わいの高级ゼリー

●みずみずしくだものゼリーが新発売

コストボリタン製菓より夏向けの新しいゼリーが新発売されました。天然果実、天然果汁100%の甘さをおさえた、さわやかな深い味わいの高級ゼリー。レモン、アップル、チエリー、ストロベリー、ラズベリー、ライムの6種類。パッケージは素朴な自然さを大切にして考えられた木箱が用いられています。夏の暑い日に冷蔵庫で冷たくひやりして、冷たいお飲物と召し上がっていただくと最高です。木箱入り(25個)1,500円、バラ売り各種類100g400円。

ポケット ジャーナル



★兵庫県が外国人のための

よろず相談所をオープン

日本語がうまく話せず、
風俗習慣も違うため日常生活に不便を感じている外国人の人たちも多いが、5月1日から須磨区にある兵庫インターナショナルセンターが開設された。



兵庫県には留学生も多い

兵庫県には兵庫イントラナショナルセンターが開設され、これまでにも兵庫県には留学生が多い。これまでも兵庫県には留学生が多い。これまでにも兵庫県には留学生が多い。



建立された歌碑と花木直彦司

★田辺福麻呂の万葉歌碑が

敏馬神社に建立

4月29日、敏馬神社本殿東側に田辺福麻呂の万葉歌

に嬉しい話題だ。

□ひょうご海外文化交流センター

久田徹二、地唄舞の松本尚

藤夫妻が「平家幻想」をテ

トリサイタルから神戸文

化ホール（中）で開く。構

成・演出／美弥昭彦／平家

幻想の修羅と艶の主題と

演奏は「沙羅双樹」を舞の

松本尚時と、バレエの加藤

きよ子、琵琶の柴田旭堂、

尺八の酒井松道、声明の斎

川觀弘、小泉即澄、朗誦西

恒堂子らで。長唄「八島官

女」を松永和佐次朗らで、

地唄の「千鳥」を尚時の舞

で、能の「敦盛」を久田徹二

が最後に演じる。前回の源

氏物語の好評に続いて、平

家物語への取り組みに期待

が寄せられている。（チケット

ト三千円、お問合せ☎919-513）

★神戸風景の新しい魅力

宇野資枝によるもの。同社

には既に柿本人麻呂の図旅

歌（玉藻刈る敏馬を過ぎて

また、これとは別に留学

生を対象にしたいいろいろな

企画も進行中。国際化時代

の寄贈によるもので、小豆島から石を運び、彫刻の

得て作られたものである。

★「平家幻想」に挑む

久田徹二・松本尚時

第39回神戸文化ホールゲ

リーンステージに、能楽の

久田徹二、地唄舞の松本尚

藤夫妻が「平家幻想」をテ

トリサイタルから神戸文

化ホール（中）で開く。構

成・演出／美弥昭彦／平家

幻想の修羅と艶の主題と

演奏は「沙羅双樹」を舞の

松本尚時と、バレエの加藤

きよ子、琵琶の柴田旭堂、

尺八の酒井松道、声明の斎

川觀弘、小泉即澄、朗誦西

恒堂子らで。長唄「八島官

女」を松永和佐次朗らで、

地唄の「千鳥」を尚時の舞

で、能の「敦盛」を久田徹二

が最後に演じる。前回の源

氏物語の好評に続いて、平

家物語への取り組みに期待

が寄せられている。（チケット

ト三千円、お問合せ☎919-513）

誕生日

ありがとう

運動

幼・保育園での

お誕生会での協力を!!

みんなのお子さんやお孫さん

などのいっていらっしゃる幼稚園

が開かれていると思います。

お誕生会の時に、この運動にご

協力いただけないでしょうか。

わが子が、今年も無事に誕生日

を迎えるべく成長しているこ

とを喜び感謝すると共に、目を社

会に広げていただきたいのです。

そして、ちえおくれの問題を、他

人事としないで、わが事として主

体的に考えてください。

幼・保育園のお誕生会の時のこ

の運動への協力は、運動発足当

初の昭和四十年から始まり、今で

は、この協力園が、神戸市

のほか、京都府、滋賀県、大阪

府、和歌山県、島根県、新潟県な

どの百十園にも広がっています。

協力園でやっていたただいている

具体的なことは

①その月にお誕生会を迎える

お子さんには、本運動のビラを配

運動の趣旨と自発的な献金（一口

百円）を呼びかけていただく。

②献金協力者は、本運動からか

わい幼児向けの参加カードを送

りお礼とします。

③本運動の啓発紙（季刊）を発行

毎に全国児数送り、各家庭に配付

してもらいます。

幼児期から、他のことをあた

たかく思いやる心を育てる福祉教

育の一環として、多くの幼・保育

園でのご協力ををお願いいたします

誕生日ありがとうございます

運動



651 神戸市中央区御幸通八一六

神戸国際会館一階の郵便局の隣

第二五一八一六一内線三二六

邦雄画伯が、5年ほどまえから描き続けてきた神戸風景をまとめて、4月24日オリエンタルホテル2階で「神戸百景展を開いた。会



小松崎さんと神戸風景



の夜景にあじさいをあしら
ン20本入りで絵柄は表がビ
ーナスブリッジからの神戸
の夜景にあじさいをあしら

絵柄の神戸風景

絵柄の神戸風景

絵柄の神戸風景

の神戸風景

★ ピバ！ 神戸まつり
新しい観光たばこ発売
神戸まつりの時期に合
わせて日本専売公社から観
光たばこ「神戸」が
発売された。マイ
ルドセブ

★ 特異な舞踏集団が
太陽演舞場に
関西の大学を中心に幅広
い活動と特異な舞踏で注目
される。月曜定休。
問合せは電341-3333

★ ピバ！ 神戸まつり
新しい観光たばこ発売
神戸まつりの時期に合
わせて日本専売公社から観
光たばこ「神戸」が
発売された。マイ
ルドセブ

サンバチームのパレード風景。5月1日発売だが25万個の限定で売り切れ間近！

い裏面は我が月刊神戸っ子
サンバチームのパレード風
景。5月1日発売だが25万
個の限定で売り切れ間近！

★ 名画ファンに好評！

三越文化劇場

『地域社会の文化生活への提案とコミュニケーションの促進を図るための文化サロン』

化劇場が神戸三越6階に。ゆったりした70の座席とり

チチなムードが特長、他では見られぬ傑作映画を厳選

シナムードが特長、他では見られぬ傑作映画を厳選



三越文化劇場

して上映するとともに多目的ホールとして各種発表

会、ファッショニングヨーなどにも使用される。

オープニング第1弾はピリーウィルダー監督の「悲愁」、

続いて「ブリキの太鼓」「家

族の肖像」「ベリッシマ」など映画ファン待望の名作が

上映される。月曜定休。

問合せは電341-3333

★ 特異な舞踏集団が

太陽演舞場に

関西の大学を中心に幅広い活動と特異な舞踏で注目

される。月曜定休。

を集めている舞踏集団「白虎社」が4月22・23日、ライブBOXチキン・ジョンで公演を行なった。今回の出し物は新作の「サイレント独楽」。鍛え抜かれた肉体と深玄な表情に満員の観客も固唾をのんで舞台を見



特異な「白虎社」の舞踊

らっぽの世界」を筑前び

わ、娘義太夫とのジョイントで公演を行なう。

10年間、スイス、ドイツ、

アメリカでジュエリーデザ

インを勉強のち、3年前

に帰国、京都で制作をつづ

けていた女性が、このほど

念願のジュエリー教室を芦

楽しみを味って下さい

この書には、著者の祖父敬父・益川（靖一）のことが書かれている。漢詩人であった祖父、「虹が滅ぶよう急逝した」新聞記者の父、その二人の足跡を訪ねて著者は長崎へと向かう。もともと「天秤」に連載されたが、同誌の休刊後は「六甲」に引き続いだ。著者によると載られたものだ。著者によると「やちまた」と「夕暮れに母を植えて」と三部作にする積りで執筆されたそうだ。努力である。

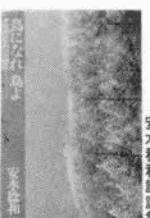
虹滅記

足立

巻一

足立

巻一



鳥になれ鳥よ
安水穂和詩論集



図書ガイド



★明るい雰囲気のラウンジ

コリーナドーロが3周年

北野坂ヒルサイドテラス

1Fのラウンジ、コリーナ

ドーロが開店3周年を迎えた。

コリーナドーロとは、「金の丘」という意味のイ

タリア語で、彫刻家の新谷

秀紀さんが名付け親。



明るい雰囲気の店内



シックなあなたの部屋

ピアノの弾き語りや弦楽
店「ボトルシャンブル」が、
5月29日、開店1周年を迎えた。

朝日放送「お早よう朝日
です」などのディクターと
して活躍していた平岡和子
さんが「脱サラ」で始めた
店「ボトルシャンブル」が、
5月29日、開店1周年を迎えた。

★ボトルシャンブル
開店1周年
朝日放送「お早よう朝日
です」などのディクターと
して活躍していた平岡和子
さんが「脱サラ」で始めた
店「ボトルシャンブル」が、
5月29日、開店1周年を迎えた。

ドで飲っている。
★ボトルシャンブル／神戸市中央区
北長狭通2丁目5-17 サンセット
ビル5F ☎ 331-5184
で、幻の名酒を！

タプロウスというスコツ

チを御存知だろうか。日本

では手に入れにくい貴重な

樽入りモルトタイプ・ウイ

スキード。一度飲ると病み

つきになることうけあいだ

が、嬉しいことにデュー

ク・ウエリントンではいつ

でもこれが飲めるのだ。噂

を聞いてやってくる東京や

九州からのお客も数多い。

そのうえバブでありながら

、貝柱のテリース（80

0円）、鶏のボルト風味

（900円）等、手頃な値

段で本格的な料理も楽しめ

る。あなたも幻の名酒を片

手にゴージャ斯な一刻を過

ごしてみたら如何かな。

ティータイム11AM-6PM レス

ラン・パブタイム6PM-11:30

P.M. 日曜休

パブレストラン＝デューク・ウエ

ントン／中央区北長狭通2-6-6

（トアロード）☎ 332-1125

●神戸うまいもん とドリンクキング

ビーフステーキルーム

則竹

中央区北長狭通2丁目14-1
1番331-9580

トアロードの高架下から一筋北を東へ入ったビルの一階に則竹がある。

10席だけのこじんまりし

た店内だが、藍染めのテ

ーブルクロス、壁には鉄

斎の書が掛けられ重厚な

雰囲気が良い。メニュー

はステーキだけで9によ

つて値段が異なるが、女性

なら4000円のコース

で満腹になるようだ。上

質のステーキが竹皮を敷

いた鳳凰柄の古伊万里皿

で運ばれてくるという贅

沢さは、この道一筋の則

竹昭宏氏の心意気。

※11AMから10:00円と20

00円のランチが登場しまし



豪華なランチ

ヤズを中心としたレコードのコレクションが約300枚。カップルも多い明るい雰囲気の店で、真珠関係や流れの同店は、素敵な応接間といった雰囲気をもつ、まさにあなたの部屋。マスク界やタレント、文化人たち、多彩な顔ぶれが、ホリ、自家製のレアチーズケーキ、アップルパイも好評

タリア語で、彫刻家の新谷秀紀さんが名付け親。

ジャズを中心としたレコードのコレクションが約300枚。カップルも多い明るい雰囲気の店で、真珠関係や流れの同店は、素敵な応接間といった雰囲気をもつ、まさにあなたの部屋。マスク界やタレント、文化人たち、多彩な顔ぶれが、ホリ、自家製のレアチーズケー

ク、アップルパイも好評

北長狭通2丁目5-17 サンセットビル5F ☎ 331-5184
で、幻の名酒を！

タプロウスというスコツチを御存知だろうか。日本では手に入れにくい貴重な樽入りモルトタイプ・ウイスキード。一度飲ると病みつきになることうけあいだが、嬉しいことにデューウエリントンではいつでもこれが飲めるのだ。噂を聞いてやってくる東京や九州からのお客も数多い。そのうえバブでありながら、貝柱のテリース（800円）、鶏のボルト風味（900円）等、手頃な値段で本格的な料理も楽しめる。あなたも幻の名酒を片手にゴージャスな一刻を過ごしてみたら如何かな。

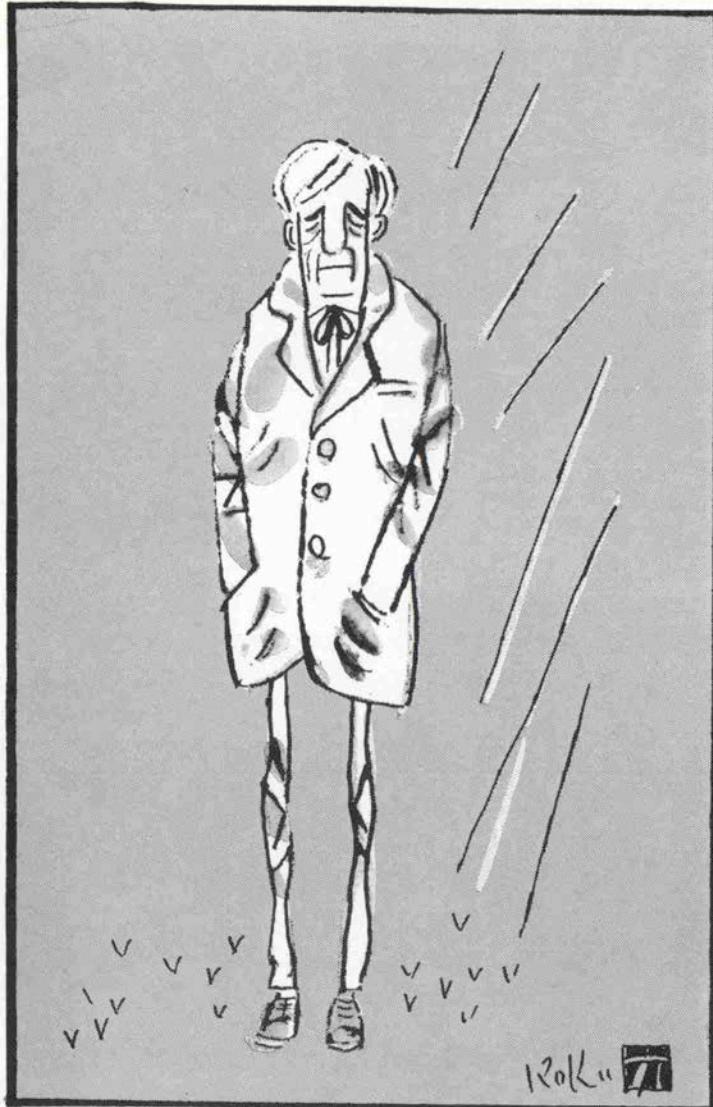
ティータイム11AM-6PM レスラン・パブタイム6PM-11:30 P.M. 日曜休
パブレストラン＝デューク・ウエントン／中央区北長狭通2-6-6（トアロード）☎ 332-1125

海の柩

菊池 佐紀

え・貝原 六一

Roku



馴染んだ。夢だと悟ると、気恥しくなつて、頬が赤らん
だ。

昼間、M市まで出かけて行き、帰つて来た時はぐつた
りと疲れていた。千賀子が紹介してくれた人物を頼りに

男に抱かれた夢を見ていた。夢にしては確かな手応え
があった。交溝った感触がはつきりと体の芯に残つてくれ
ぶつっている。手足の先までうつすらと汗を搔いていた
が、そのうち冷えてきた汗の粒は仄照つた肌に心地よく

思いきって訪れた福祉事務所で何とか相談に乗って貰い、案外やすやすと冬太郎の身の振り方が決まりそうになつてみると、ひょうし抜けがしたのか急に疲れが出た。幸先の良さそうな賽の目は出たのだったが、手放して喜んでしまえない割り切れない感情が佐知子の心中に濶のよう溜っている。夜分に入つて、ふくに電話すると、安堵するかと思つたふくが意外だと言わんばかりの不服そうな声を出した。

「養老院だなんて、あんまりですよ」

「ちがうわ、養護老人ホームなのよ。病気のお年寄りばかり集めて面倒見てくれるところなのよ。ベッドがちょうど一つだけ空いてたのよ。運が良かったんだわ」

ふくにそう説明して、二、三秒ためらつてから、付け加えた。

「少し遠方なの、県内にはちがいないけど、山の中だから、ちょっと不便だけど」

ホームの在り場所を正確に伝えると、

「そんな、奥さま」

皆で聞かず、ふくの声が尖ってきた。そんな、と続けて言つて、そのまま、佐知子が何を言つてもふくは黙りこくつている。もしもしと佐知子は声を強めて、ふくを呼んだ。

「そんな山の中へ冬太郎さまを行かせるんですか、奥さま」

ふくの声が涙声に途切れた。仕方がないのよ、私にはこれ以上どうしようもないのよ。と佐知子はふくをなだめにかかった。折角、引き取つてやろうと言つてくれるのに、今、辞退してしまつたら、いつベッドが空くか判らないんだから、完全看護で設備もいいそうだから、決してふくが想像するようなみじめなところではないのだ

と佐知子は口調に力を籠めた。ふくが返事をしないまま、あさつて、福祉事務所の人と二人で冬太郎の様子を見に行くから待つていて頂戴、午前中には行けると思うわ。いいわね。と言つて受話器を置いたが、自分の声が

ひどく猫なで声に思えて、佐知子はいや気がさした。喜んでいいのかどうなのか自分でも判らなかつた。社会福祉の手にゆだねるのだから費用もむろん要らないし、佐知子の負担は免れる。冬太郎のこれから運命は国に任せ置けばそれで済む。今までさんさん持て余してきたものを、体よく危険払いしたことになる。肩の荷が軽くなるのを喜んでいいはずなのに、気が重かった。要の出張している留守の夜をなかなか眠れないでいる。

あなたの義理のお父様で?と相談に乗つてくる所員はちよつと暗に落ちない顔をして見せた。いいえ、あの、別に深いかわりなんでないんです。ええ。どぎまぎしながらそれでもはつきりと佐知子は、自分が老人の面倒を見なければならぬ義理合いなど無いことを口にしていた。嘘をおつき、ともう一人の自分が責め立ててくる。顔が仄照つっていた。手続きを頼んで外へ出るとホツとしたが靴に錐りを付けて曳きずつてゐる感じがする。

ひと区切り付いたはずなのに、気持ちがちつとも弾んでこないのだ。十一時が打つても寝つけそうにもなかつた。養老院だなんてあんまりですよ。ふくの非難をこめた語調が聞こえてくる。暇を呉れと言つたくせにふくも少々身勝手な氣もするが、怒る氣もなれない。

ふくはもう冬太郎に喋つてゐるだろうし、高声のあの電話では冬太郎に聞こえないわけはない。あの分だと興奮したふくが前後の見境いもなく、冬太郎に老人ホームの所在地まで克明に教えて、病人の気持を波立たせ煽り立ててしまつ危惧があつた。ふくに場所まで教えてしまつたのは早計だったときりにになり始めた。冬太郎をホームへ放りこんで早く薬をしようとしている自分がいやらしい女に思えてならない。どうにも後ろめたいのだ。

寝つけないままに、階下へ下りて行って、要が独り寝を続いているベッドの枕元の小棚からブランデーを出してグラスにつぐと、唇へ持つていった。冬太郎と争つてヤケ酒を呑んだことが胃の中へ落ちた琥珀色の熱い液体

と一緒に甦ってきた。呑みつけない酒の酔いが四股に廻つてき始める。パンヤの柔い枕に頭を押し付けたまま、このまま明日まで冬太郎のことは何も考えまい、と思った。ふみ代の手紙のことも考えないで置こうと思つた。

切手を探すために何気なく要の机の押出しを開けると、無難作に投りこんだ、と思える手紙の束があつた。

ふみ代にしては思ったよりうまい文字で宛名は大学であになつてゐる。慌てて書き出しを縮めたが、やはり落着かなかつた。気が咎めながら、五通あるのを全部読んでしまつた。世話になつた挨拶に混つて、冬は寒くていやですねえとか、今どこそこで働いていますがその病人の看病たいへんなんです、とか他愛のないことが書き連ねてある。ふみ代が机の中からいきなり出て来て、唇の端を歪めてものを言つてゐる、そんなほろ苦い気がしてくる。ふみ代の文面から押して、要が返事を出した形跡は見当らない。

あさつては福祉事務所の職員が冬太郎の様子を実際に見て呉れた上で、入所の希望を叶えてくれるだろう。千賀子が頼み込んでくれた民生委員の口添えもあって、内諾は得たも同然なのだから、安心していく間違いはなさうだつた。

酒の勢を借りて、つと引き込まれた夢の中で、佐知子は男と交姦つた。ベッドの下方にある部屋のドアが開くのが判つたが音は伝わらない。暗いぶよぶよした大きな翳りが足元から近づいて来て、佐知子の上に被つた。声を立てようとしたが果せなかつた。佐知子の痩せた腕の肉附きをその男はすっぽりと抱いた。強烈な腋臭の匂いがする。しばらく忘れていたあの、身内にたぎつて渦巻いてくるくるめきの感覚を佐知子は取り戻していた。関節がはずれ、ばらばらに分解した体が宙に浮き上つた。熱い煌めきが眼球の底を一筋彩つて走り抜けてゆく。佐知子は呻き声をあげた。男は佐知子から体を離すと、音もなく遠のいて消えた。

時間が認識できない。立ちこめた闇の重く濃い淀みか

ら推して、真夜中だということが次第に判つてきた。ベッドの傍らを手で触つてみた。男の残していつた温もりがありそうに思える。男の顔は思い出せない。どうしても駄目だった。ただ、あの男が泣いていたのだけはよく覚えている。目鼻などはじめから無かつたのかもしれない。それにしても男の実在感があり過ぎた。男と交姦つたあとの手触りがはつきり残つてゐる。腋臭の生温かい匂いがシーツにまだ立ちこめている。要にはない匂いだ。あんな恥しい夢を見てしまつたのは、自分の体がそろそろ人並みに快復しかけてきた兆しなのかしらと佐知子は顔を赤らめながらそう思つた。

風が頭上で渦巻いてゐる。海の彼方から松林を越えて丘陵地帯に吹き上げてくる風の勢は普段から激しかつたが、今夜は特に荒んで聞こえる。春に台風でもあるまいと思つても、瓦が歎きしりの音を立てて軋んでいるのが判る。螺旋状に身もだえた風が唸りを立てて屋根の上を吹き抜けたあとから、次つぎと形相を変えて風の軍団が押し寄せてくる。庭木のざわめきに重なつて雨の音も聞こえる。鶏のかまびすしい哭き声が雨音に交錯して耳に入つた。どうどう三百羽にも増えてしまつた巨大な鶏群は、雨風の烈しい夜分ともなると殊更に喚き立てる習性を持つてゐる。ベッドに押し入つて來た男の頭部に赤黒い色をしたとさかがあつた。そんな妄想がじわじわと開を開いて上つてきて、佐知子は慌てて枕元の明りをひねつた。少し落着いてくると今度は、現実の不安が募つてくれる。要は計算があつてふみ代の手紙の束を書き出しに投げ入れたのではないだろうか。ぞんざいに女の手紙を扱つているように見せかけて、ふみ代とは何でもないことを佐知子に判らせようとしたのではないか。疑い出すときりがなかつた。五日間の出張は長すぎる。ゼミだとか研究会だとか要是言つてはいたが、案外、ふみ代と遠出したこと行つてくれる方が自尊心を傷つけられなくて済む。ごおつと風が唸つた。そのまま目が冴えてしまつて、とう

とう一睡もできなかつたが、明け方近くなつて、やつと眠りに引き込まれた。

時計が九つ鳴つて、気が付いた。雨風がますます烈しくなつている。夢から醒めざわの虚ろな視線を白じろと明るんだ宙に這わせていると、ず、うん、と電話の呼び鈴が鳴る。冬太郎だろうか。すぐにベッドを脱け出た。

「奥さま」

ふくだ。いきなり、わつと泣き声を上げた。大変です。と言う。ほんとに大変なんです、奥さま。とふくは大声を上げた。受話器に口をびつたり押し当てるのだろう。調子はずれの興奮しきった声がきんきんひびいた。

「冬太郎さまが居なくなつたんです。出て行つてしまわれたんです」

まさか。と佐知子はふくの言葉をはねのけた。冬太郎

は、左半身不自由な病人なのだ、出て行けるはずがない。廊へ行くのもやつとである。ごく気分の良い日には縁側まで出て陽向に体を晒したり、そろそろと歩いて郵便受けを見に行つたりするくらいは何とかできた。その程度の動きしかできない。

「ほんとうなんです、奥さま、まじめに聞いて下さい」受話器にすがりついて、ふくは訴えている。おびえた声だ。

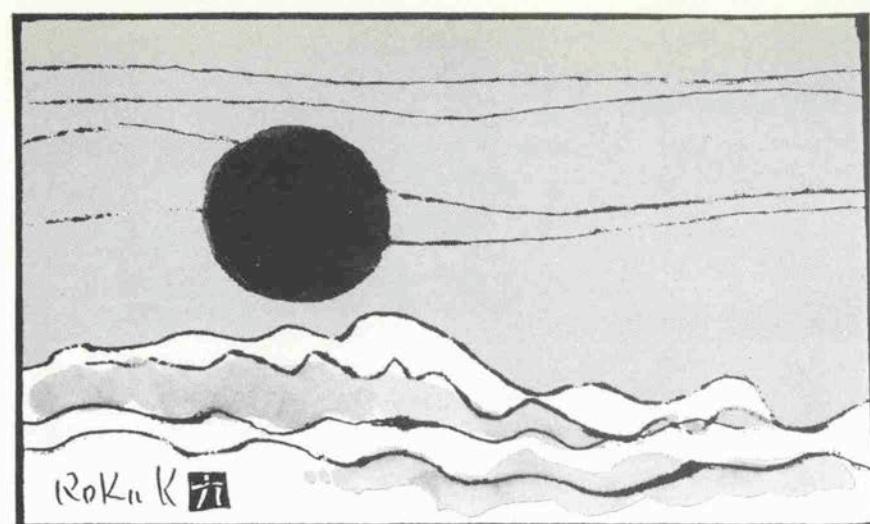
「ちゃんと洋服も着更えて、それも一張羅の、そら、あの茶色のコール天の、一番お気に入りのよそ行きを着て、私が寝入っている間にどつか行っちゃつたんですよ。そうにちがいありません」

「探してみたの？」

「そりやあもう。あっちこっち探し廻つて、どうしても見つからないから、近所の人にもうべ冬太郎に、山どしや降りでしょ」

「どうして早く知らせてこないのよ」

「すみません。まさかこんなことになるなんて」



声が泣き崩れた。やっぱりふくはゆうべ冬太郎に、山の中の老人ホームの話を持ち出したのだと思つて、佐知子は暗澹となつた。行つてみないわけにはゆかない。すぐ車を手配しなければ。動悸が打つた。いやな予感がする。落着いて、落着かなれば。電話をかけて車を頼むと、この嵐で方々から口が掛かり、空車はないと言つ。何とかお願いできませんかと食い下ると、四十分は待つて貰わないとダメですと男の声が笑つけんどんにはね返ってきた。それがひどく情のない声に聞こえる。郊

外の辺鄙なこの町で営業しているタクシーの数は僅かしかなかつた。身分不相応なほどの立派な車を持つてゐるのに、要さえ居てくれたらと歯ぎしりするほど口惜しかつた。当然この場に居合せていいはずの事がこんな大事時に居てくれたためしがなかつたのに思い当ると、いつな時に限つて居ないのはひどく意地の悪い仕打ちをされよう。口惜しさが溢れてきた。ふみ代がこちらに白い目を向けて嗤つてゐる。四十分も家の中にじっと閉じ籠つて待つて居られない氣持だつた。電車は動いているだろう、とにかく出てみよう。そうするしか手はなかつた。

重いカーテンを開け、ブラインドをはずす。手が慄えている。目を真正面に見据えて、佐知子は、あつと息を呑んだ。海が消えていた。どす黒い雲の集団が視界のすべてを覆い隠し、風と繋つて渦巻状に旋回していた。素早しこい早さでちぎれ雲が一定の方向目指して飛んで行く。山も町並も煙も何も見えなかつた。うす墨色ひどいろに塗り潰された視野の届く限りに風が音を立てて荒れ狂つてゐる。ガラス窓が風にたわんで、内側向けて反つてゐた。ゆうべ雨戸を締めずに中からブラインドだけ下して寝てしまつてゐた。横殴りの雨がガラスを洗い、雨滴がサッシューを水浸しにしている。今、外へ出ようものなら自分の瘦せた骨格はひきちぎれるか傘ごと吹き飛ぶかするだろう。この嵐の中をさまよつて冬太郎の雨足に打たれた顔と、病み果て枯れ枝同然の肢体が浮かんだ。

若いころからお洒落な冬太郎は大事に持ち続けた一張羅のコール天のステツを着てずぶ濡れになりながら風の道を歩いて行く。どこへも行くあてのない道を、濡れた背に気に入りの上着を張りつかせたまま地獄のように過ぎ去つて行つた。たまらなかつた。胸の奥がぎゅつと痛

んだ。涙が吹き上りてきた。それから、あつと声をあげた。冬太郎が顔をこちらへ向けた。頬に涙が光つてゐる。夢で交媾した男も泣いていた。男の顔の輪郭が冬太郎の顔と重なつた。夢中で佐知子はガラス窓を引き開けた。冬太郎が樹の下に立つてこの部屋を見上げてゐる。長い髪の毛を逆さまに吹き上げた。大粒の烈しい雨滴が雪崩れこんでくる。部屋の中へ闖入した風は壁の正面に吊した海の絵の額ぶちを震わし始めた。

ごおつと時折、けものの咆哮に似た声が海とおぼしい方角から上つた。空も海も陸地も一枚の暗幕に変貌した視界の奥に一筋の帶状に流れ、僅かに海が在つた。一瞬、てらつと、海面がうす気味わるい光り方をした。雲に横臥わる一匹の竜の背そくりに、海づらが脂ぎった光を放射して、うねうねと身をくねらし始めた。それまるで、暴風雨のために死んだ夥しい魚たちが海面に浮上して燐光を放つて燃えているように思えた。一夜のうちに海は、魚たちの柩に変貌していった。

(了)



小説を書く、ということは「業」だと思います。それもプロ作家ならぬアマチュアが小説を書こうとするのですから、当然、自分の内部で、何のために書くのか、どうして書こうとするのかといつた素朴な疑問が起つたりします。書くことはたとえよもやなく孤独な作業であり、独りぼっちで航海する心細さによく似ていますので、時には深い虚無感に堕ちこむこともあります。小説は何かの役に立つのだろうかと首を傾げることもあります。時代が複雑化するにつれ、いんげんの心理の在り方も複雑怪奇になつてきましたので「現代人」書くことはますます難しくなります。現代人の内部ひそむものを抉り出してそれを適確に型化することは大変な作業となるでしょう。私自身について言えば、小説を書くことは、自分の平凡な現実と日常性から飛翔する時間を過したいがためで、別にこれこれと言つた目的はないのですが、考えて見ると、文学に目的があるだろうかと思えてきます。音楽が音楽 자체のために存するように思えます。小説は何の役にも立たぬからこそ役立つのだ、という信念を持っています。これからも可能な限り、小説書き続けたいと願つてゐる次第です。

神戸文学賞作品募集

小説は昭和51年に創刊15周年記念として神戸文学賞および神戸女流文学賞を創設いたしました。これを機に有為の新人に新しく道を開くとともに、西日本における文学活動の一層の発展のために微力を尽したいと願っております。過去の受賞作品は次の通りです。

- 第一回神戸文学賞「島之内ブルース」(田藤新二・尼崎市) 同女流文学賞「ベットの背景」(小倉弘子・大阪市)
- 第二回神戸文学賞「姥捨て」(奥野忠昭・大阪府柏原市) 「生活」(吉峰正人・神戸市)(この回の神戸女流文学賞は該当なしで、神戸文学賞が受賞)
- 第三回神戸文学賞「自由と正義の水たまり」(蒼窓一・奈良市) 同女流文学賞「夢の消滅」(大原田記子・高知市)
- 第四回神戸文学賞「溶ける闇」(高木敏克・神戸市) 同女流文学賞「影と棲む」(田口佳子・伊丹市)
- 第五回神戸文学賞(該当なし) 同女流文学賞「痕跡」(久保田信子・大阪市)
- 第六回神戸文学賞「ガチャマン」(南禪満作・神戸市) 同女流文学賞(該当なし)

ここに第七回文学賞を公募するにあたり、多数の意欲的御投稿をお願いするとともに清新かつ強力な作品の出現を期待する次第です。

△募集要項

- 一、神戸文学賞は男性作品、神戸女流文学賞は女性作品とし、共に西日本在住者で応募作品は一篇に限ります。
 - 一、応募作品は未発表原稿、または締切以前、一年未満に発行の同人誌に掲載したものに限ります。
 - 一、原稿枚数は四百字詰百枚前後。
 - 一、原稿には住所、本名、年齢、職業、略歴を明記し、四百字程度の作品主題(創作主旨)をつけて下さい。
 - 一、締切りは八月一日(当日消印有効)
- △募集要項
- 一、入選発表は本誌昭和五十八年新年号誌上で、同号より作品を掲載します。
 - 一、原稿の返却、選考経過などに関する問い合わせには応じかねます。
 - 一、入選作品の著作権は本誌に属します。
 - 一、入選作品各一篇には副賞として賞金二拾万円が贈られます。
 - 一、原稿の送り先、お問い合わせは、神戸市中央区東町一一三の一大神ビル七階月刊神戸っ子「神戸文学賞係」まで。
電話〇七八一三三一一二二四六

☆なお、選考は小説ならびに小説が依頼した選考委員によつて行います。